



「夜明けのすべて」

この映画は切り口としてパニック症候群とか PMS という精神的な疾患を焦点にしてはいるが、主題としては会社社会というコミュニティの中での仲間の優しさに人がどんなふうに癒されるかということを描いている。インターネットによって誹謗中傷が蔓延し、何が真実かわからなくなり表層的な感情だけで世論が動いていくこの生きづらい世の中。コミュニケーションの主流はメールや SNS で電話さえも疎かになり、人と相対してコミュニケーションをとることを出来るだけ避けようとしているように思われる。実際に会って話さないと伝わらないよねなどと思っても、なかなかその流れは止められない。しかし、昔はここに描かれるような会社やコミュニティで他人のことを気にしたり、心配したりして、ちょっとお節介が過ぎるくらいの関係が良かったな～と感じる私はまだ昭和の古き良き世代の生き残りか？今なら鬱陶しいと煙たがられてしまうのが普通感覚か？現代に生きる人が全てそうだと思うくはないが、どうせなら温かな人たちの間で生きたいよねと観終わった後、凄く感じました。上白石萌音と松村北斗、だんだんと親密になっていく二人の関係性の空気感がとても良いです

あらすじ

月に一度、PMS（月経前症候群）でイライラが抑えられなくなる藤沢さんはある日、同僚・山添くんとある小さな行動がきっかけで怒りを爆発させてしまう。だが、転職してきたばかりだというのに、やる気が無さそうに見えていた山添くんもまたパニック障害を抱えていて、様々なことをあきらめ、生きがいも気力も失っていたのだ。職場の人たちの理解に支えられながら、友達でも恋人でもないけれど、どこか同志のような特別な気持ちが芽生えていく二人。いつしか、自分の症状は改善されなくても、相手を助けることはできるのではないかと思うようになる。



成年後見の事なら！ 特定非営利活動法人

みどり兵庫通信

第30号 令和7年 1月 15日発行

〒662-0074

西宮市石劔町19番13号総合相談支援センター3階

TEL:0798-78-2537 FAX:0798-78-2538

Email: npo-midori@siren.ocn.ne.jp

HP: <https://midorihyogo.jimdo.com>

明けましておめでとうございます。

2025年1月1日

NPO法人みどり兵庫 理事 河崎洋充

昭和100年だそうです。

福祉元年（1988）から37年経ちました、何が変わったのでしょうか？

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

知的障がい児・者の権利や生活、生命を守るために、デンマークのハンス・ミケルセンが、1950年代に提唱したのが、「ノーマライゼーション」です。障がい者も高齢者も人格を尊重され、他の人々と同じ権利を享受し、地域社会で主体的な生活を送り、参加が保障されるのが、ノーマルな社会であるという思想がノーマライゼーションです。

難しい哲学もイデオロギーも要りません。地域で、普通に暮らしていく。学校へ行く、仕事に行く、買い物をして出掛けてもいいのです。ただ、知的障がいの方は、出来ることと、出来ないこと、あるいは理解することが困難な人がいます。だから、契約事などの意志決定に後見人制度を利用して、騙されたり財産を取られたりする被害を防ぐことが出来ます。

私が、大阪市の知的障がい者の作業所に入職したのは、1980年代、30歳の時でした。ノーマライゼーションという単語が、職場でも話題になっていました。しかし、誰一人として、この単語を説明できるものは、いませんでした。その後、施設協議会の研修の項目に上がるようになりました。社会福祉士や介護福祉士の資格制度が出来るのは、それから10年後ぐらいでした。30歳代40歳代の方々は、何か福祉の世界が変わると漠然とした期待を持っていた時代です。

ノーマライゼーションから、バリアフリーが提案されて、今は、ユニバーサルデザインの時代です。最初から、計画的に建物や制度を造っていくようになりました。

でも、40年前は、まだまだ障がい者への偏見差別が、根強くありました。朝のラッシュ時に車いすで改札を通ろうとすると、「お前の来る時間じゃねよ。」と、車いすごと放り出された事件がありました、そんな事例は、よくありました。

この50年間で、我が国でも、地域・在宅福祉として、グループホームの拡充など選択肢が増えてきました。しかし、本当に、ノーマライゼーションやバリアフリーは、着実に根付いたのでしょうか。バリア（障壁）フリーの実現のためには、物理的・制度的、情報・心理的の4つのバリア除去が言われて久しいですが、いまだに心理的な差別による虐待や偏見、無視、子ども殺し、高齢者への金銭的犯罪など、後を絶ちません。いつになったら犯罪被害の無い時代が、来るのでしょうか。

今年こそは、ノーマライゼーションとバリアフリーの具現化が、より進むことを願っています。障がいのある無しにかかわらず、平和で暮らしやすい世界が早く実現することを願っています。

理事就任あいさつ

日本福祉大学社会福祉学部准教授 添田 正揮

このたび、理事に就任いたしました添田正揮（そえたまさき）でございます。日頃より当法人の活動にご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。また、これまで当法人の基盤を築いてこられた先輩方のご尽力に深く敬意を表します。

私は現在、日本福祉大学社会福祉学部にて准教授を務めており、実習教育研究センターのセンター長として、社会福祉人材の育成および養成に力を注いでおります。また、ソーシャルワークを専門分野として、特に外国にルーツのある人の権利擁護や国際福祉、多文化共生をテーマに研究実践をしております。これらの経験を通じて培った知見を活かし、みどり兵庫の活動に少しでも貢献できればと考えております。

成年後見制度は、法的な支援を通じて支援を必要とされる方々の生活を守り、尊厳を尊重しながら、その人らしい暮らしを支える重要な仕組みです。しかしながら、現場での課題や制度への認識不足が依然として存在するのも事実です。こうした状況を踏まえ、皆さまと協力しながら、利用者の方々がより安心して生活できる環境を築くことを目指してまいります。

初めて理事としてこのような重要な役職をお引き受けするにあたり、まだまだ至らぬ点も多いかと存じますが、皆さまのご指導を仰ぎながら、謙虚な姿勢で取り組む所存です。皆様の声に耳を傾け、制度利用者のニーズを的確に捉えた支援を実現するために尽力してまいります。また、私がこれまで教育現場で得てきた経験を活かし、成年後見制度の重要性を若い世代にも伝え、未来の支援者を育てるための啓発活動や研修の充実にも取り組んでいきたいと考えております。未来に向けて「支え合いの輪」を広げていけるよう努力してまいります。

最後に、みどり兵庫の活動が地域に根ざし、支援を必要とされる方々の生活を支える存在であり続けるよう、全力を尽くすことをお誓い申し上げます。今後とも、皆さまのご指導とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

寄付御礼

2024年7月～12月

赤堀 佐代子 様	市川 裕子 様
鵜久森 史江 様	片上 悦子 様
河崎 洋充 様	川瀬 とし江 様
木田 都司子 様	高橋 敬 様
塚本 勤也 様	服部 英司 様

お気軽にご相談下さい

★後見申立人を必要とされる方がおられましたら、いつでもお気軽に「みどり兵庫」にご相談ください。
★後見従事者を募集しています。
お気軽にお電話ください
0798-78-2537 (川内)

会員登録のお願い

特定非営利活動法人 みどり兵庫は、皆さまのご支援のもと、会費、寄付金、事業収入で運営しています。年間の会費は以下の通りです。ご協力よろしくお願い申し上げます。

・特別会員 5,000 円 ・会員 3,000 円 ・賛助会員 2,000 円 ・団体会員 10,000 円

身上監護従事者交流会

2024年11月22日（金）15時より西宮すなご医療福祉センター6階会議室にて交流会を開きました。

西宮すなご医療福祉センターも面会日と時間が増え、また近隣を散歩できるようになり、活動の幅が増え、身上監護従事者も楽しく面会ができるようになりました。

○個人懇談会や病棟懇談会、保護者会にも参加し、職員や他の保護者の方のお話をお聞きする機会も増えて、お聞きしたい事、また意見を伝えるなど積極的に参加させて頂いています。

○従事者の姪御さんが、利用者の方に絵手紙を描いて下さり心温まる想いに感謝の気持ちでいっぱいです。

○また、従事者が利用者の方にぬいぐるみを用意して渡すと、とても喜ばれ、面会に行くたびに大事に胸に抱いて、従事者の声を聞くと満面の笑顔で声を出して喜んで下さるとのことでした。

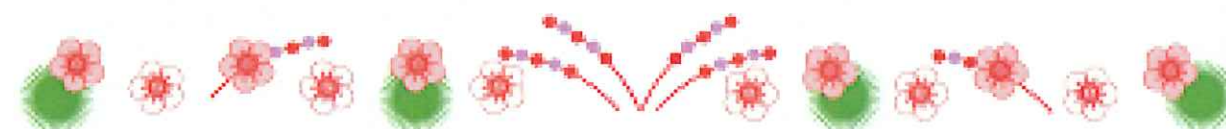
○面会した時に、足りない衣類はないか引き出しをチェックし、またご家族や職員の方から上着など補充してほしいと言われ、その方に合う衣類を購入していることなど報告がありました。店頭では買えない洋服をネットで探して購入しているという従事者もありました。

○面会することで、利用者とのふれあい、笑顔を見ることも喜びですが、病棟に行くことで、職員の方とお話する機会が増えて、利用者のことをより知ることが出来るようになったとの声もありました。また、気になることもこれまでは遠慮して聞けなかったことも信頼関係が出来、話し合えるようになったこともあり、面会の大切さを述べ合いました。

○従事者になり、まだ不安もあって、車いすで園の近くを散歩することが出来ていなかったのですが、みどり兵庫スタッフ1人が応援に入り、一緒に初めて近くを散策しました。利用者は阪神電車が通ると、楽しそうな表情をされたのが嬉しかったとの報告もありました。

○みどり兵庫が、財産管理や契約等の身上監護だけではなく、日常的に利用者に会い、寄り添うことを大切にする活動を行っている NPO 法人であることを改めて実感した交流会でした。

事務局 川内光子



NPO 法人 みどり兵庫の理念 自分らしい生活を自然におくる

1. これまでの人生、これからの人生を尊びます
2. 幸福な社会と生活を目指します
3. 安心して穏やかな生活を支えます
4. 温かくチームで包括的に支えます

